

第3学年 英語科学習指導案

対 象

指導者

1 単元名 Program7 What is the Most Important Thing to You ? (開隆堂 Sunshine English Course1)

2 単元について

(1) 生徒について

(2) 教材について

言語材料として関係代名詞（主格）を取り扱う。関係代名詞（主格）は、接続詞と後続の文の主語という2つの役割を持つため、これまで2文で伝えていた内容を1文で表現する点で便利であり、より複雑な表現を可能にしている。Program6では、分詞による後置修飾（現在分詞、過去分詞）を学習している。分詞（現在分詞、過去分詞）による後置修飾は、先行詞＋関係代名詞（主格）＋be動詞＋現在分詞(または過去分詞)という語順の文では、関係代名詞（主格）＋be動詞は、ともに省略できるというルールに基づくもので、指導の順序では、本来は関係代名詞（主格）を指導した後で省略された形として指導すべき文型であるが、教科書の単元配列上、先に指導する。

また、山本敏晴さんの国際協力活動の話題は、人生の意義や生き方を考える3年生のこの時期において、大変興味深い題材であると考え。山本さんの生き方やメッセージに触れ、どのような考えを持ったのかを話し合わせたい。

(3) 指導について

修飾する語が修飾される語の前に置かれる、前置修飾を基本とする日本語の語順と、後置修飾となる関係代名詞の語順は異なる。そこで、以下のステップを踏んで学習させたいと考えている。まず、先行詞＋関係代名詞節の語順に慣れさせる。次に、部分訳や who や which の選択のドリルを繰り返す。更に、動詞を先行詞の数に合わせるなどが理解できた上で、最後に先行詞＋関係代名詞節の前、または後に英文を加え、全文の理解を図っていきたい。身近な人物や、自分の欲しいものの説明など、関係代名詞を使い何文も表現させることで、単元の目標に迫りたい。

教材の読後には、山本さんの活動やメッセージも併せて紹介し、命の大切さや他者への協力について、生徒同士で意見を交換させ、一人ひとりに自分の考えを持たせたい。

3 単元の目標

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

関係代名詞（主格）を用いて、人物と人物以外のものについてその特徴を伝えようとする。

(2) 外国語表現の能力

関係代名詞（主格）を用いて、人物と人物以外のものの特徴を伝えることができる。

(3) 外国語理解の能力

山本敏晴さんのボランティア活動の内容を理解することができる。また、お絵描きイベントを通して世界の国々について学ぶことはどのような国際協力につながるのかを考えることができる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

発展途上国への海外支援について、現状と課題を知る。

4 指導と評価の計画

次	時	学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
小5	8	Hello, everyone. アルファベット・自己紹介	好きなもの、欲しいものを伝え合おうとしている。	欲しいものを聞いたり、言ったりすることができる。	自己紹介を聞いて、必要な情報を得る。	日本語と英語の音の違いに気づく。
中1	4	Program 3 一般動詞（肯定・疑問・否定）SVOの文	好きなことをメモなどを参考に伝えようとしている。	自分に関する情報を伝えることができる。	ウッド先生の自己紹介で話していることをとらえることができる。	一般動詞の用法を理解し、書くことができる。
中3	1	関係代名詞（主格）who	なりたい人物や職業について伝えようとしている。	人物の特徴について伝えることができる。		先行詞（人物）＋関係代名詞節の用法を理解することができる。
	2	宇宙船地球号という団体活動で国際貢献に関わる山本敏晴さんの活動の目的をとらえる。			山本さんがボランティア活動にどんな目的で取り組んでいるかをとらえることができる。	発展途上国での医療の実情を把握し、「宇宙船地球号」の目的に気づく。
	3 【本時】	関係代名詞（主格）which	自分の欲しいものについて伝えようとしている。	自分の欲しいものの特徴を伝えることができる。		先行詞（人物以外のもの）＋関係代名詞節の用法を理解することができる。
	4	山本さんが発展途上国で出会った子供たちの大切なものが何であるのかをとらえる。			マルアオとミハエラにとって何が最も大切なものかをとらえることができる。	ツバルとルーマニアの子どもたちが描いた絵から、途上国の抱える問題に気づく。
	5	関係代名詞（主格）that	週末の予定について相手に伝えようとしている。	人物や人物以外のものの特徴を伝えることができる。		先行詞（人物や人物以外のもの）＋関係代名詞節の用法を理解することができる。
	6	「お絵描きイベント」を通して世界の国々を学ぶことはどんな国際協力につながるのかをとらえる。	絵を見て、どんな国際協力が考えられるのかを考えようとする。		山本さん自身が企画するプロジェクトで何をしようとしているかを理解することができる。	本当の国際協力とは何か、また一人ひとりに何ができるのかを考えることができる。
			関係代名詞（目的格）which, that	人物や人物以外のものの特徴を伝えようとしている。	人物や人物以外のものの特徴を伝えることができる。	

5 本時の指導

(1) 目標

主格の関係代名詞(which)を用いて、人物以外のものについて説明することができる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	主格の関係代名詞 (which)を用いて、自分の欲しいものについて伝えようとしている。
外国語表現の能力	主格の関係代名詞 (which)を用いて、自分の欲しいものの特徴を伝えることができる。
言語や文化についての知識・理解	先行詞 (人物以外のもの) + 関係代名詞節の用法を理解することができる。

(3) 展開

	学 習 活 動	●指導上の留意点 ◎評価
導入 5分	1 挨拶とウォームアップ活動 2 本時の課題の確認 「こんなものが欲しいなあ。」～自分の欲しいものについて、関係代名詞を使って説明しよう～	●対話した内容について、数名の生徒に発表させる。
展開 38分	3 前時の想起 主格の関係代名詞 who の用法を確認する。 4 課題の解決 (1) 主格の関係代名詞 which の導入 ①先行詞+関係代名詞節の語順 ②部分訳 ③全文訳 ○the dog which runs fast ○Look at the dog which runs fast . ○The dog which runs fast is Iggy. (2) 関係代名詞 (主格 which) を用いた CA 「こんなものが欲しいなあ」という英文を3文書く。 ①モデル文提示 I want a bike which can run fast . (速く走ることができる自転車がほしい。) I want a cat which has blue eyes . (青い瞳を持つ猫がほしい。) ②モデル文の練習「先生方は何が欲しいのでしょうか？」 ○課題文日本語訳→部分英訳→全文英訳 ③個で課題の解決 ④ペアで課題の解決 2人の相手と、互いに作った英文を伝え合う。また、相手から聞いた内容を書き取る。 ⑤発表 (自分の欲しいものについて) ⑥発表 (ペアの人の欲しいものについて)	○the man who skates well ○Look at the man who skates well . ○The man who skates well is Yuzuru. ●関係代名詞(who)を導入したときと同様に、段階的に新出事項の導入を行う。 ●先行詞が三人称単数の場合の動詞の形も確認する。 ●モデル文に慣れ親しんだ後に、さらに多様なモデル文に触れる。先生方が欲しいものは何なのか、英文を日本語訳→部分英訳→全文英訳の手順でモデルに数多く触れさせる。 ◎主格の関係代名詞 (which)を用いて、自分の欲しいものの特徴を伝えることができているか。(活動の観察・発表) ◎主格の関係代名詞 (which)を用いて、自分の欲しいものについて伝えようとしているか。(活動の観察・発表) ◎先行詞 (人物以外のもの) + 関係代名詞節の用法を理解できているか。(発表・記述)
終末 7	5 まとめ 関係代名詞の用法の確認と、モデル文の暗唱 6 振り返り 7 次時の確認	● ペアで関係代名詞の用法を確認する。また、暗唱ができているかも確認し合う。

